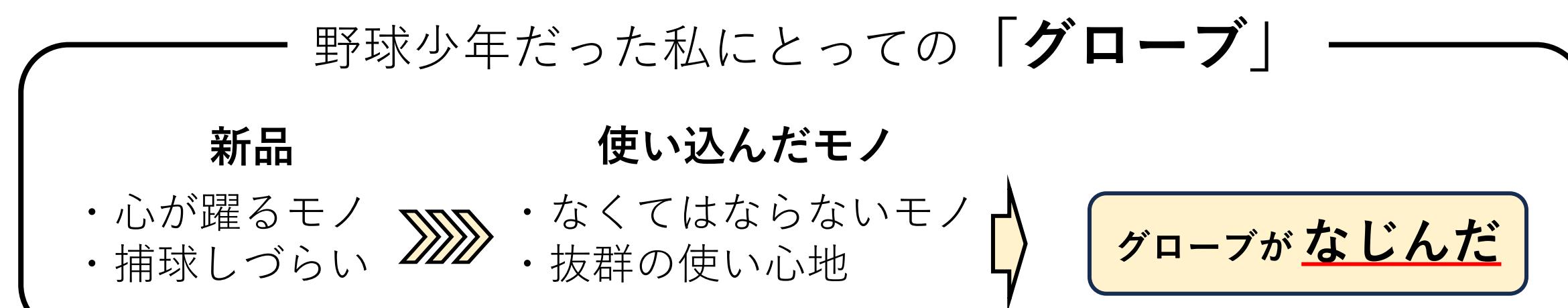


なじむ感性

小高大輝 吉田宏昭 (信州大学)

1. はじめに



一言で「なじむ」と言っても…
手になじむ、靴がなじむ、職場になじむ、なじみの客 etc... ➡ 様々な「なじむ」が存在
目的
「ヒト」と「モノ」との関係性の中の「なじむ」に着目。
「なじむ」を紐解き、その価値を見出す。

2. 「慣れる」と「なじむ」

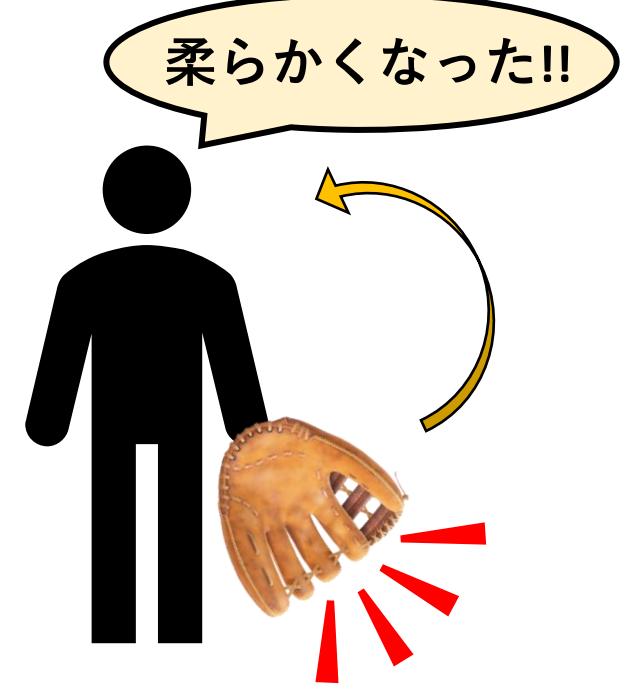
■ 慣れる：違和感がなくなる、習熟する



(例) グローブの扱いに慣れる

「ヒト」から「モノ」へのアプローチ

■ なじむ：ひとつにとけ合う、調和する



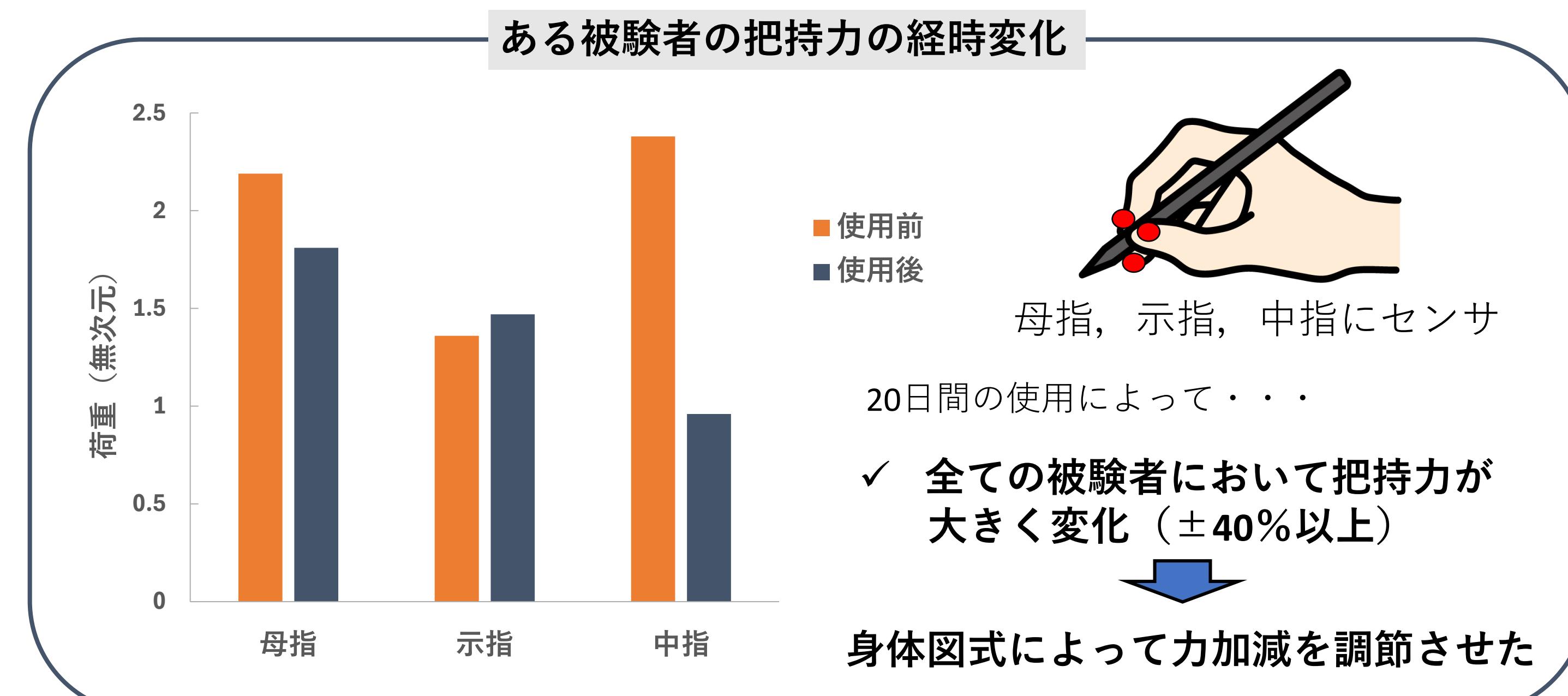
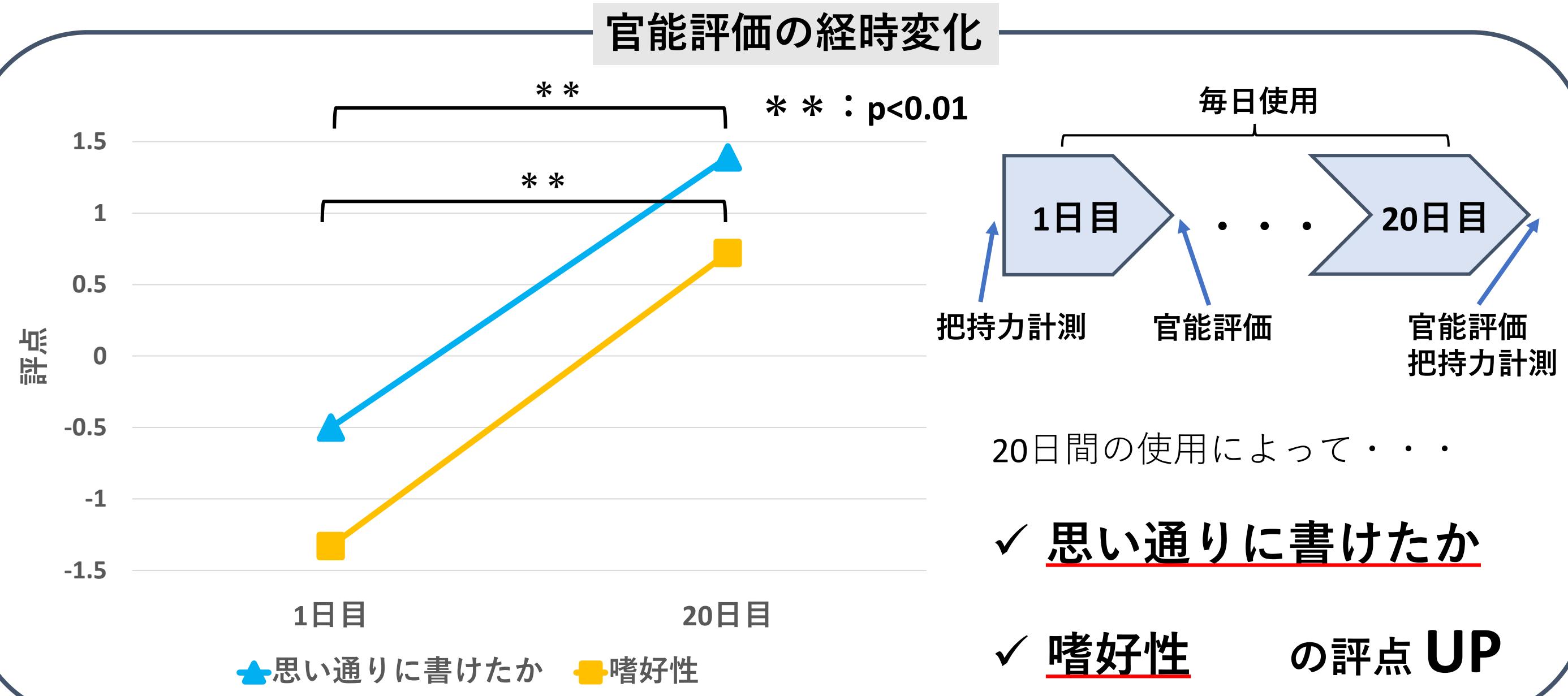
(例) グローブが手になじむ

「モノ」から「ヒト」へのアプローチ

3. 事例

□ 慣れる：シャープペンシル

ペンを20日間使用した際の印象評価と把持力の経時変化
・被験者：大学生10名 ・試料：各被験者が今まで未使用のペン



「ヒト」が「ペン」に合わせて把持力を変化

「ヒト」が「ペン」に慣れた

4. 今後の展望

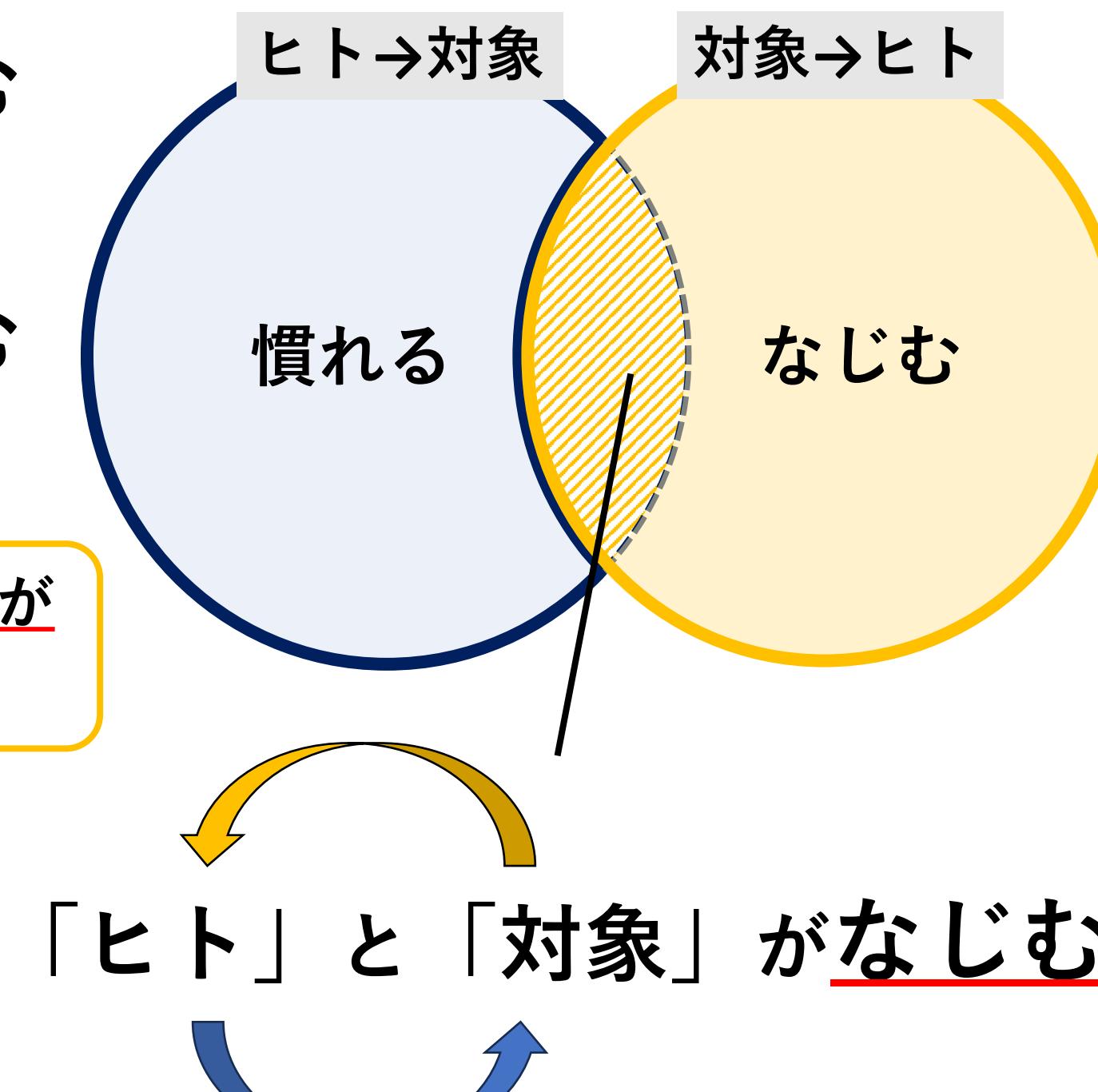
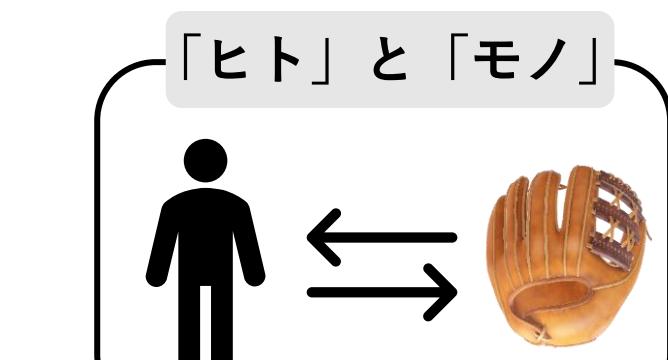
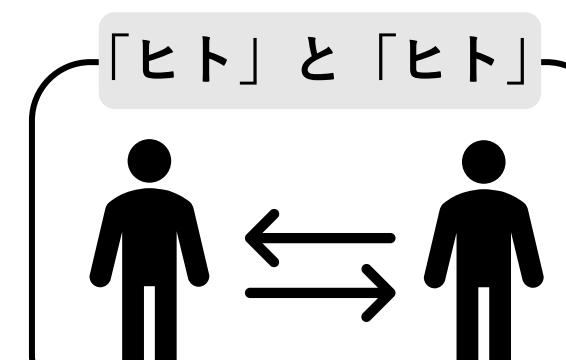
◆ 「対象」が「ヒト」になじむ

例 靴が足になじむ

◆ 「ヒト」が「対象」になじむ

例 (ヒトが) 職場になじむ

「ヒト」と「対象」の双方的なアプローチが想定できるのは!?



5. おわりに

「ヒト」→「モノ」のアプローチ ➡ 扱い方の習熟、愛着

「モノ」→「ヒト」のアプローチ ➡ 自分専用にカスタマイズ

モノの溢れた現代において

1つの「モノ」とより長く、深い関係性を築く

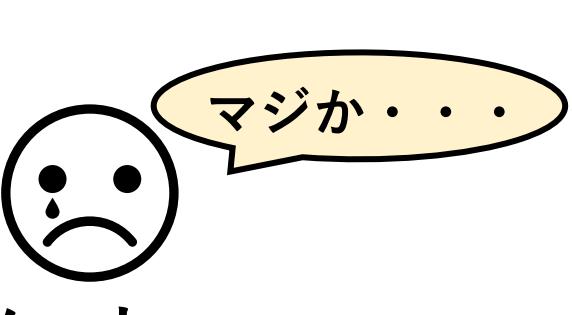
そのためには…

◆ 「モノ」の価値

使用後の「なじむ」ことまで考えた展開しかし…



消費者



メーカー

◆ 「ヒト」の感性

感性：情報のやり取り、関係形成能力

何かになじみ、なじみを感じ取る
「なじむ感性」

を育む

